

歯医者さん通信

File No 031 咬み合わせの悪さが健康に与える影響

不正咬合



解説 工藤 昌之 院長

神宮歯科クリニック
札幌市中央区南一条西1丁目2-1
☎011(631)0010
<http://jingumae-dc.jp>



反対咬合



歯生

咬み合わせのことを専門的に「咬合」といいます。人はそれぞれ歯の形や大きさ、歯の周りの歯肉や顎内、顎や顎関節の形は異なります。従って一概に正常な咬合を定義することは難しいのですが、今回は代表的な不正咬合について解説します。

不正咬合にはさまざまなパターンがあります。上顎前突はいわゆる「出っ歯」の状態。下顎前突は「受け口」になってしまう状態で、反対咬合とも呼ばれます。下顎が上顎より突出しているか、上顎が下顎より後退していることで起こります。上下顎前突という、上下両方の歯が前方に出してしまう例もあります。

歯生は「八重歯」や「乱い歯」とも呼ばれる。歯が歯肉に生えている状態です。歯肉は、歯溝はしっかり嵌んでいるのに、歯肉が腫れてしまう状態のことです。

過密咬合は上の歯が下の歯に深く咬み合っている状態。下の歯が見えないほど咬み合わせが深い例もあります。切端咬合は上下の歯の先端同士がぶつかってしまう咬み合わせです。空歯咬合は歯と歯の間にすき間ができる「すきっ歯」のことです。



間咬



空隙歯列



歯ぎしり

咬み合わせの悪さは、さまざまな原因が考えられます。遺伝もそのひとつで、親の骨格が遺伝して歯列に影響するケースもあります。

また、歯列の先天的な異常や何らかの病気から歯が欠損し、不正咬合が起こる例もあります。歯肉や歯肉腫も歯を失う大きな要因ですから注意が必要です。歯が欠損すると、その両側の歯が次第に移動したり傾斜したりするため、早めに対処する必要があります。知らずのうちに歯並びが変化し、咬み合わせが悪くなることもあります。

歯ぎしりや食いしばりなどの咬み癖も影響します。食いしばりは歯に負荷をかけますし、歯ぎしりをする歯が傾斜したり減り、不正咬合の原因になります。片側だけで咀嚼するといった癖があると、左右のバランスが崩れ、顎関節や歯高が変形してしまうこともあります。生活習慣も不正咬合の大きな要因なのです。

不正咬合は口の中や体にも影響を及ぼします。まず歯みがきがしにくくなるため、虫歯や歯周病の原因になります。間咬の場合は歯肉が腫れてしまうため、発音に影響を及ぼします。口の中の筋肉や骨格は全身とも連動するので、腰痛や肩こりのほか、全身的な不調の原因になります。成長期では正しい顎や顔の成長を阻害し、見た目に影響を及ぼすことがあります。とくに女性の場合にはコンプレックスとなり、精神的な悪影響も懸念されます。

治療は基本的に「歯列矯正」と「補綴矯正」があり、前者ではブラケットと呼ばれる装置を歯に取り付け、ワイヤーで歯を動かしながら歯並びの改善を図ります。子どもと大人それぞれに応じた治療法があります。骨格の問題がある場合は、大学病院や口腔外科で外科的な矯正（顎の骨切り）も行います。補綴矯正は人工の歯（補綴物）を使い、知覚野で歯並びを矯正する治療法です。

このほか不正咬合の治療は、歯を一斉削って調整するだけで済む場合もありますし、マウスピースなどの装置を使うこともあります。まずはきちんとした歯表、診断が必要です。治療は保険が効く場合と効かない場合がありますので、まず一度かかりつけ歯科医院や矯正歯科で相談されることです。

歯列矯正の最新情報 2022.10月号



暮らしと健康の月刊誌「ケア」
10月号に掲載されました。

咬み合わせの悪さが健康に与える影響
不正咬合